

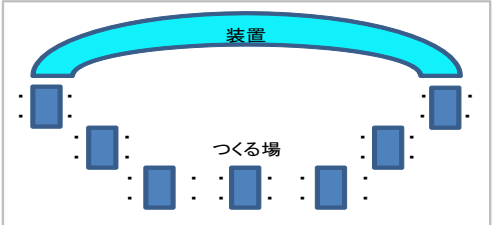
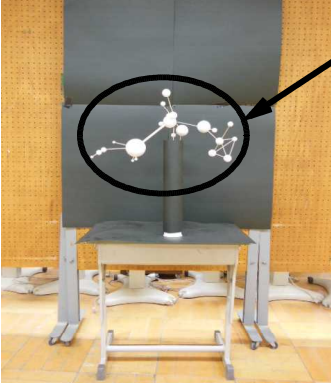




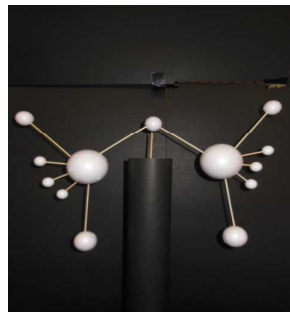
図画工作科学習指導案

I 題材 バランス アート
II 題材の指導計画 (指導と評価の計画参照)
III 本時の学習

- ねらい 自分や友達の子どもの配置を見合いながら、球と棒のつなげ方を工夫して、美しいと感じられる配置の作品をつくる。
- 準備 発泡スチロールの球 先のとがった棒 黒い厚紙 台座 はさみ
- 本時の展開と、想定している子どもの意識

学習活動と活動の目的	想定している子どもの意識	主な手立て (☆は研究上の手立て)・評価
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <p>○作品の配置を考えながら、球と棒をつないで動く立体をつくることを知る。</p> <p>— 本時のめあて — 友達と作品を見合いながら、球と棒のつなげ方を工夫して、自分の気に入った配置の作品をつくらう。</p>	<p>自分の作品は、釣り合って静かに動くよ。</p> <p>作品を回してみると見え方が変わったよ。</p> <p>見る角度によって、球が重なって見えなくなる配置があるな。</p> <p>棒の長さを少し変えただけで、見え方が変わったぞ。</p> <p>作品を動かしながら、球と棒のつなげ方を見てみよう。</p>	<p>・様々な配置の参考作品を提示したり、配置を変える演示をしたりして、配置による感じ方の違いについて、学級全体で話し合う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>様々な角度から見ても変化のある配置の例</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>見る角度によって球が重なって見えなくなる配置の例</p> </div> </div>
<p>2 自分や友達の子どもの作品を見合いながらつくる。</p> <p>○配置について考えて、球の大きさやつなぐ棒の長さを工夫してつくる。</p>	<p>わたしの作品は、色々な大きさの球がたくさん付いているよ。もっと小さい球を付けたいな。</p> <p>ぼくの作品にも、動かしてみると球が重なって見えなくなる角度があるぞ。</p> <p>横に球を付けてみたら、球が重なって見えなくなる角度はなくなったけれど、全体的に球がばらばらでまとまりがない感じがするな。どうしようかな。</p> <p>球をつなぐ棒の長さを変えてみよう。</p> <p>球の並び方が、きれいな作品ができたぞ。装置に置いてみよう。</p>	<p>☆つくる場と装置を卵型に配置する。</p> <div style="text-align: center;">  </div>
<div style="text-align: center;">  <p>球と棒をつなげてつくる動く立体の例</p> </div> <p>形がシルエットとして強調できる装置</p>	<p>棒の長さをそろえて球を付けてもよさそうだな。</p> <p>球の並び方がそろっていて、まとまりがある感じがするな。どうやったらまとまりがあるようにできるのかな。</p> <p>球をつなぐ棒の長さを少しずつ変えてみたよ。</p> <p>わたしは、大きな球に、棒の長さをそろえて小さい球をたくさん付けてみよう。</p> <p>ぼくは、球の並びをもっときれいにしたいから、球をつなぐ棒の長さをそろえてみよう。</p> <p>球をつなぐ棒の長さを少しずつ変えたから、全体的に球のまとまりがあるように見えたのだな。</p> <p style="text-align: center;">※友達と見合いながらつくることを繰り返す。</p> <p>球の並び方が、気に入った作品ができたよ。</p>	<p>☆黒い紙を背景にした、形がシルエットとして強調できる装置を用意する。</p> <p>— 生かしたい子どもの姿 — 友達の作品の球や棒の配置を見たり、配置の仕方について尋ねたりしている。</p> <p>— 評価項目 — 自分や友達の子どもの配置を見合いながら、球の大きさや取り付ける位置を変えたり、つなぐ棒の長さを調節したりしてつくっている。 <行動・発言・作品 (3)></p>
<p>3 本時のまとめをする。</p> <p>○自分や友達の子どもの作品を見合いながら、学習を振り返る。</p>	<p>左右で球の大きさと棒の長さが同じ作品もきれいだな。もっと他の作品も見てみたいな。</p>	<p>・自分や友達の子どもの作品を鑑賞する場を設定する。</p>

図画工作科 6年 指導と評価の計画（全4時間予定）

題材	バランス アート			
目標	重さのバランスを考えて球と棒をつなげながら、美しいと感じられる配置を見つけてつくる。			
評価 規準	(1) 重さのバランスのとり方を試しながら、球と棒をつなげて動く立体をつくる活動に取り組もうとしている。 (2) 重さのバランスを考えて球と棒をつなげながら、美しいと感じられる配置を思い付いている。 (3) 美しいと感じられる配置を考えながら、球の大きさやつなぐ棒の長さを工夫してつくっている。 (4) 友達と互いの作品を見合い、よさや美しさを感じ取っている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法（観点）>
・ふねくるらせる ・あらわす	1	○球と棒をつなげて、重さのバランスで動く立体をつくることを知る。 ○球の大きさや取り付ける位置、棒の長さを変えながら、いろいろな付け方を試す。	○重さのバランスをとりながら動く立体をつくる活動に取り組むことができるように、参考作品を提示し、球と棒のつなげ方を演示する。 ○簡単に部品を付けたったり取ったりすることができるように、発泡スチロールの球と先のとがった棒を用意する。	◇球と棒をつなげて、動く立体をつくる活動に関心を示した発言をしたり、集中して参考作品を見たりしている。 <発言・行動（1）> ◇重さのバランスを変えたり、試したり、部品をつけ替えたりしている。 <行動・作品（2）>
	3	○自分や友達の作品を動かしながら見合い、球の大きさやつなぐ棒の長さを工夫してつくる。（本時2／3）  球と棒をつなげてつくる動く立体の例	○球と棒による配置の工夫を考えられるように、作品を動かして、様々な角度から互いの作品を見合える場を設定する。  球の大きさを徐々に小さくした配置の例  支点の左右を対称にした配置の例	◇自分や友達の作品の配置を見合いながら、球の大きさや取り付ける位置を変えたり、つなぐ棒の長さを調節したりしてつくっている。 <行動・作品（3）>
・あひじろわげうる		○自分や友達の作品を見合って、互いに感じたことを伝え合う。	○球と棒による配置の美しさを感じるができるように、作品を際立たせる鑑賞する場を設定する。	◇自分や友達の作品の球と棒による配置の美しさについて、学習プリントに記述している。 <学習プリント（4）>
共通事項	自分の感じ方や活動を通して、形や構成、動きなどの造形的な特徴を捉え、自分なりのイメージをもつ。			